

平成22年3月期 第3四半期決算短信

平成22年2月3日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社 よみうりランド

コード番号 9671 URL <http://www.yomiuriland.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 関根 達雄

問合せ先責任者 (役職名) 上席執行役員 経理部担当

(氏名) 小林 利光

TEL 044-966-1134

四半期報告書提出予定日 平成22年2月12日

配当支払開始予定日 —

(百万円未満切捨て)

1. 平成22年3月期第3四半期の連結業績(平成21年4月1日～平成21年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
22年3月期第3四半期	11,005	1.3	1,791	6.7	1,867	3.8	1,039	3.2
21年3月期第3四半期	10,861	—	1,679	—	1,799	—	1,007	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
22年3月期第3四半期	13.00	—
21年3月期第3四半期	12.46	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
22年3月期第3四半期	53,736	17,173	32.0	214.75
21年3月期	50,152	15,649	31.2	195.57

(参考) 自己資本 22年3月期第3四半期 17,173百万円 21年3月期 15,641百万円

2. 配当の状況

	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
21年3月期	—	2.50	—	2.50	5.00
22年3月期	—	2.50	—		
22年3月期 (予想)				2.50	5.00

(注) 配当予想の当四半期における修正の有無 無

3. 平成22年3月期の連結業績予想(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	14,366	2.3	1,741	△4.0	1,775	△7.9	1,026	17.9	12.83

(注) 連結業績予想数値の当四半期における修正の有無 無

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) 無
新規 一社 (社名) 除外 一社 (社名)

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 無

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更に記載されるもの)

- ① 会計基準等の改正に伴う変更 有
② ①以外の変更 無

(注)詳細は、4ページ【定性的情報・財務諸表等】4. その他 をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	22年3月期第3四半期	83,522,024株	21年3月期	83,522,024株
② 期末自己株式数	22年3月期第3四半期	3,550,034株	21年3月期	3,544,962株
③ 期中平均株式数(四半期連結累計期間)	22年3月期第3四半期	79,974,086株	21年3月期第3四半期	80,841,897株

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は経済情勢や天候等の様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想に関する事項は、4ページ【定性的情報・財務諸表等】3. 連結業績予想に関する定性的情報 をご参照ください。

【定性的情報・財務諸表等】

1. 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、世界的な金融不安による景気後退局面から一部持ち直しの動きが見え始めたものの、依然として企業収益と雇用環境の低迷が続くなど、厳しい状況で推移しております。

当社グループの関連する業界におきましても、個人消費に回復の兆しが見えず、新型インフルエンザの影響も受けるなど、厳しい経営環境が続いております。

このような状況の下、昨年9月に創立60周年を迎えた当社は、遊園地でシルバーウィークに実施した「大秋祭り」や12月に初めて実施した冬季の夜間営業「よるランド」が好評を博し、売上向上に寄与しました。また、京王よみうりランド駅南通路「よみうりV通り」の開通や読売巨人軍の新室内練習場の竣工など所有地の有効活用を推進するとともに、11月26日付で温浴施設「稲城天然温泉 季乃彩(ときのいろどり)」の事業を獲得し、経営基盤の強化を図りました。

公営競技部門の川崎競馬は、6月の本場開催より世界最大の大型映像装置「川崎ドリームビジョン」の運用が開始され、迫力あるレース映像や多彩な情報が提供されるようになりました。また、従来昼間に実施していた12月の開催をセミナイター開催で実施した結果、「全日本2歳優駿」は前年以上の盛り上がりを見せました。しかしながら、投票券総売上高は、一人当たりの購買金額が落ち込んだことなどにより、減少しました。船橋競馬は、ゴールデンウィークに行われたビッグレース「かしわ記念」の投票券売上高が船橋競馬の1レース売上記録となるなどの活況を呈しました。また、当社が運営をしている特別観覧席では、様々なイベントを実施しファンサービスに努めました。その結果、入場者数は前年同期並みを確保しましたが、一人当たりの購買金額が落ち込んだことなどにより、投票券総売上高は減少しました。船橋オートレースは、年末にオートレース最大のビッグレース「スーパースターフェスタ2009」が船橋で初めて開催され、投票窓口の増設や特設売店の設置など、主催者はじめ関係団体と協力して、受入体制を整えました。また、開催日数が増加したこともあり、投票券総売上高は増加しました。競輪場外車売場「サテライト船橋」は、12月に開設1周年を記念し、選手トークショーをはじめ様々なイベントによりファンサービスを実施しました。また、ナイター発売が好調だったことや年末の競輪グランプリの売上も前年を大きく上回り、投票券売上高は順調に推移しております。

ゴルフ部門の東京よみうりカントリークラブは、12月に開催された「ゴルフ日本シリーズ」JTCカップが賞金王争いなど話題性もあり、前年を上回る盛り上がりを見せました。通常営業につきましては、会社創立60周年記念会員ポイントキャンペーンなどを実施し、来場促進を図りました。よみうりゴルフ倶楽部は、大晦日のカウントダウンコンペをはじめ自主コンペを積極的に開催し集客に努めました。しかしながら、両場とも経済不況の影響が大きく、入場者は減少しました。静岡よみうりカントリークラブは、10月にナビゲーションシステムを搭載した乗用カートにリニューアルしたほか、コンペ開催時のサービス増強やワンオンチャレンジなどのイベントを実施し、顧客サービスの向上を図りました。しかしながら、10月の台風上陸によるクローズをはじめ悪天候によるキャンセルの影響を受けたこともあり、入場者は微減となりました。千葉よみうりカントリークラブは、4月より乗用カートにコースナビゲーションシステムを導入し、顧客サービスの向上に努めました。また、賞品が当たるスクラッチカードや祝日に49歳以下への割引料金サービスを実施したことが功を奏したほか、平日の1組セット料金「F割」利用の増加もあり、クローズが1日あったにもかかわらず、入場者は増加しました。

遊園地部門の遊園地では、12月に初めて冬季の夜間営業「よるランド」を期間限定で実施しました。アトラクションのライトアップとイルミネーション及びリーズナブルな料金設定が顧客に支持され、好

評を博しました。また、駅弁&ご当地グルメフェアや洋風お化け屋敷「恐怖の館」の期間イベントなど様々な企画で集客を図りました。その結果、悪天候や新型インフルエンザの影響による団体客のキャンセルがあったものの、「よるランド」が盛況だったほか、シルバーウィークに実施した「大秋祭り」が集客に大きく寄与し、入園者は増加しました。温浴施設「よみうりランド丘の湯」は、引き続き回数券の販売促進や様々なイベント展開、「よるランド」との連携などにより集客を図りましたが、入場者は微減となりました。また、温浴施設「季乃彩」では、事業獲得を記念した遊園地招待券の来場者プレゼント実施など、既存施設とのシナジー効果の発揮に努めました。ゴルフガーデン（練習場）は、平日打ち放題などの各種継続イベントが好評だったことにゴルフ人気も相俟って入場者は引き続き増加しました。

販売部門は、遊園地部門が入園者増に伴い増収となったものの、入場者の減少したその他の施設では低調な結果となりました。

以上の結果、総合レジャー事業の売上高は、95億2千2百万円（前年同期比2.3%増）となりました。

また、不動産事業の売上高は、販売用宅地の分譲は増加したものの、シニア施設の賃貸における保証金償却益の計上が前連結会計年度で終了したことにより、11億2千5百万円（同5.1%減）となり、建設事業の売上高は、工事の受注は増加したものの、その他の部門が低調だったことにより、11億3百万円（同1.1%減）となりました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は、110億5百万円（同1.3%増）、営業利益は17億9千1百万円（同6.7%増）、経常利益は18億6千7百万円（同3.8%増）、四半期純利益は、10億3千9百万円（同3.2%増）となりました。

2. 連結財政状態に関する定性的情報

当第3四半期連結会計期間末における総資産は前連結会計年度末に比べ35億8千3百万円増加し、537億3千6百万円となりました。これは、温浴施設「季乃彩」の事業譲受け等により有形固定資産が12億8千2百万円増加したことや、保有株式の時価評価額の増加等により投資有価証券が15億6百万円増加したことが主な要因であります。

当第3四半期連結会計期間末における負債は前連結会計年度末に比べ20億5千8百万円増加し、365億6千2百万円となりました。これは、新規借入れに伴い長期借入金が14億8千8百万円増加したことや、保有株式の時価評価額の増加等により繰延税金負債が6億7千2百万円増加したことが主な要因であります。

当第3四半期連結会計期間末における純資産は前連結会計年度末に比べ15億2千4百万円増加し、171億7千3百万円となりました。これは、四半期純利益10億3千9百万円に加え、その他有価証券評価差額金が8億9千9百万円増加したことが主な要因であります。

以上の結果、自己資本比率は前連結会計年度末の31.2%から32.0%となりました。

3. 連結業績予想に関する定性的情報

通期の業績予想につきましては、当第3四半期連結累計期間の業績がおおむね計画通りに推移しており、平成21年5月13日発表の数値から変更はございません。

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）

該当事項はありません。

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用
該当事項はありません。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

請負工事に係る収益の計上基準については、従来、工事完成基準を適用しておりましたが、「工事契約に関する会計基準」（企業会計基準第15号 平成19年12月27日）及び「工事契約に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第18号 平成19年12月27日）を第1四半期連結会計期間より適用し、第1四半期連結会計期間に着手した工事契約から、当第3四半期連結会計期間末までの進捗部分について成果の確実性が認められる工事については工事進行基準（工事の進捗率の見積りは原価比例法）を、その他の工事については工事完成基準を適用しております。

この変更による損益への影響はありません。

5. 【四半期連結財務諸表】
 (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成21年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,370,226	4,089,982
受取手形及び売掛金	1,029,741	1,283,806
たな卸資産	324,217	348,830
繰延税金資産	127,964	152,596
その他	149,877	312,236
貸倒引当金	△488	△1,009
流動資産合計	7,001,537	6,186,442
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	19,638,131	17,202,543
土地	17,749,002	17,493,794
建設仮勘定	74,292	1,639,630
その他(純額)	1,002,927	845,388
有形固定資産合計	38,464,354	37,181,357
無形固定資産		
その他	92,234	78,262
無形固定資産合計	92,234	78,262
投資その他の資産		
投資有価証券	7,367,535	5,861,265
繰延税金資産	543,484	546,672
その他	267,134	298,870
投資その他の資産合計	8,178,153	6,706,807
固定資産合計	46,734,743	43,966,427
資産合計	53,736,280	50,152,869
負債の部		
流動負債		
営業未払金	274,184	397,459
短期借入金	3,100,000	3,100,000
1年内返済予定の長期借入金	1,180,200	1,095,200
未払法人税等	257,390	411,651
賞与引当金	28,690	119,100
その他	1,495,969	1,340,787
流動負債合計	6,336,435	6,464,198
固定負債		
長期借入金	4,534,500	3,045,900
繰延税金負債	916,682	244,062
退職給付引当金	627,943	608,797
役員退職慰労引当金	120,937	106,520
長期預り金	23,912,091	24,027,525
その他	114,048	6,740
固定負債合計	30,226,201	28,039,547
負債合計	36,562,637	34,503,745

(単位：千円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成21年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年3月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	6,053,030	6,053,030
資本剰余金	4,730,676	4,730,860
利益剰余金	6,732,404	6,097,844
自己株式	△1,308,663	△1,307,361
株主資本合計	16,207,448	15,574,374
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	966,194	67,051
評価・換算差額等合計	966,194	67,051
少数株主持分	—	7,698
純資産合計	17,173,643	15,649,124
負債純資産合計	53,736,280	50,152,869

(2) 【四半期連結損益計算書】
【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)
売上高	10,861,503	11,005,890
売上原価	8,033,974	8,071,122
売上総利益	2,827,528	2,934,768
販売費及び一般管理費	1,148,209	1,143,188
営業利益	1,679,319	1,791,580
営業外収益		
受取利息	8,182	1,951
受取配当金	123,852	114,495
その他	57,266	32,846
営業外収益合計	189,301	149,293
営業外費用		
支払利息	68,757	73,383
その他	459	375
営業外費用合計	69,216	73,758
経常利益	1,799,403	1,867,115
特別利益		
固定資産売却益	3,549	243
子会社清算益	—	5,434
特別利益合計	3,549	5,677
特別損失		
固定資産除却損	80,535	171,666
固定資産売却損	145	—
投資有価証券評価損	11,920	245
災害による損失	2,402	477
特別損失合計	95,003	172,389
匿名組合損益分配前税金等調整前四半期純利益	1,707,950	1,700,403
匿名組合損益分配額	66,922	—
税金等調整前四半期純利益	1,641,027	1,700,403
法人税、住民税及び事業税	688,088	567,351
法人税等調整額	△54,531	93,068
法人税等合計	633,557	660,419
少数株主利益	153	—
四半期純利益	1,007,315	1,039,984

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	1,641,027	1,700,403
減価償却費	1,299,319	1,352,249
固定資産売却損益(△は益)	△3,404	△243
固定資産除却損	22,875	42,691
投資有価証券評価損益(△は益)	11,920	245
子会社清算損益(△は益)	—	△5,434
貸倒引当金の増減額(△は減少)	376	△478
賞与引当金の増減額(△は減少)	△85,643	△90,409
退職給付引当金の増減額(△は減少)	85,247	19,145
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	△22,506	14,416
受取利息及び受取配当金	△132,034	△116,447
支払利息	68,757	73,383
売上債権の増減額(△は増加)	△990,957	249,896
たな卸資産の増減額(△は増加)	△94,011	24,613
その他の流動資産の増減額(△は増加)	△114,673	157,899
仕入債務の増減額(△は減少)	△99,742	△120,901
長期預り金の増減額(△は減少)	△356,803	△115,434
匿名組合預り金の増減額(△は減少)	△2,900,294	—
その他の流動負債の増減額(△は減少)	3,255,268	351,794
小計	1,584,722	3,537,388
利息及び配当金の受取額	132,034	116,447
利息の支払額	△66,725	△69,678
法人税等の支払額	△695,919	△722,611
営業活動によるキャッシュ・フロー	954,112	2,861,546
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の増減額(△は増加)	△10,161	10,097
固定資産の取得による支出	△1,851,997	△2,643,173
固定資産の売却による収入	5,425	31,744
子会社の清算による収入	—	11,434
その他	△40,156	△96,561
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,896,889	△2,686,459
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入れによる収入	2,100,000	2,400,000
長期借入金の返済による支出	△821,400	△826,400
リース債務の返済による支出	—	△7,709
自己株式の取得による支出	△270,202	△2,137
自己株式の売却による収入	1,708	650
配当金の支払額	△389,105	△384,047
財務活動によるキャッシュ・フロー	621,000	1,180,355
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△321,776	1,355,442
現金及び現金同等物の期首残高	6,485,626	3,989,499
連結除外に伴う現金及び現金同等物の減少額	—	△165,101
現金及び現金同等物の四半期末残高	6,163,849	5,179,840

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報

【事業の種類別セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間（自 平成20年4月1日 至 平成20年12月31日）

	総合レジャー 事業 (千円)	不動産事業 (千円)	建設事業 (千円)	計 (千円)	消去 又は全社 (千円)	連結 (千円)
売上高						
(1) 外部顧客に 対する売上高	9,298,510	1,184,588	378,405	10,861,503	—	10,861,503
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	10,290	1,350	736,843	748,483	(748,483)	—
計	9,308,800	1,185,938	1,115,248	11,609,987	(748,483)	10,861,503
営業利益	2,027,007	611,976	66,024	2,705,009	(1,025,689)	1,679,319

(注) 1 事業区分は日本標準産業分類を参考にし、各事業の営業内容の類似性により区分しております。

2 各事業の主な内容

- (1) 総合レジャー事業 競技場、ゴルフ場、遊園地等の運営
- (2) 不動産事業 不動産の売買、賃貸
- (3) 建設事業 建設業

当第3四半期連結累計期間（自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日）

	総合レジャー 事業 (千円)	不動産事業 (千円)	建設事業 (千円)	計 (千円)	消去 又は全社 (千円)	連結 (千円)
売上高						
(1) 外部顧客に 対する売上高	9,513,026	1,123,859	369,005	11,005,890	—	11,005,890
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	9,001	1,350	734,472	744,823	(744,823)	—
計	9,522,027	1,125,209	1,103,477	11,750,713	(744,823)	11,005,890
営業利益	2,087,589	670,925	51,135	2,809,651	(1,018,070)	1,791,580

(注) 1 事業区分は日本標準産業分類を参考にし、各事業の営業内容の類似性により区分しております。

2 各事業の主な内容

- (1) 総合レジャー事業 競技場、ゴルフ場、遊園地等の運営
- (2) 不動産事業 不動産の売買、賃貸
- (3) 建設事業 建設業

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。